

RA協議会 第2回年次大会@福井駅前AOSSA
組織外個人会員ミーティング(第1回)
2016年9月2日(金)12:20-13:20 小会場B(602)

個人会員ネットワークの 活動方針について

- ・協議会の運営体制
- ・協議会の設立趣旨、経緯と会員制度の考え方
- ・年次大会の企画&運営の年間スケジュール(時間軸の共有)
- ・大会参加者の希望(第1回年次大会参加者アンケートより)
- ・9月1日「参加者ネットワークセッション」の概要報告
- ・当面の個人会員ネットワークの活動方針(提案、意見交換)

高橋真木子

リサーチ・アドミニストレーター協議会
副会長、運営委員会委員、組織外個人会員代議員

RA協議会の運営体制 (2016年8月現在)

- **総会**: 年次大会初日夕方
- **運営委員会**:
 - 年次大会前、前日、特別総会前の3回程度の開催を予定。
 - 運営委員は、代議員のうちから構成される。
 - 運営委員は円滑な運営のため15名と規定
 - 組織会員の代議員も全員が運営委員ではない。
 - 組織外個人会員からは代議員は40人毎に1人と複数いるが、当面は運営委員は1名枠と想定。
- **専門委員会**: 15名の運営委員が分担して委員長 & 委員を担当
 - 年次大会企画運営、情報発信、スキルプログラム、
 - 国際WG
- **事務局**: 金沢大学(学長; 山崎光悦、RA協議会初代会長)
 - 事務局長 鳥谷真佐子

RA協議会の設立趣旨、会員組織の考え方

職種と機能の性格上、組織会員の活動を中心にしつつ、長期的にこの職種を発展させるために大切な、専門職としての人材層の充実、そのための個人レベルのネットワーキング機能の充実を目指す。

→ 組織会員機関に所属する個人会員、組織外個人会員の2種類があります。

(山崎会長のメッセージより)

- URAの具体的な業務は大学等によって異なっていることから、URA実務者の業務実施能力の向上、人材育成の進め方、また、個々の大学等の特性を踏まえたURA組織の在り方、キャリアパスについても多方面での取組みが求められています。このような状況に鑑み、各機関が取り組んでいるリサーチ・アドミニストレーション組織の定着・展開に向けて、それらを担う人材の育成・能力向上、課題の共有や解決についての情報交換を促し、研究力強化への貢献、学術及び科学技術の振興並びにイノベーションへの寄与を目的としたネットワーク組織「リサーチ・アドミニストレーター(RA)協議会」を設立しました。
- URAの活動は、研究者のように個人的な活動に留まるものではなく、研究組織・機関全体の研究活動に資するものです。したがって、所属組織の理解と協力の下、本協議会が実施する諸活動に参加することが望ましいと考えています。このことから、本協議会においては、研究組織・機関を対象とした組織会員を主たる会員として位置付けたいと考えています。

URAネットワーク構築に向けた活動経緯と今後

2009年
学術研究懇談 (RU11)
URAを育成・確保につ
いての議論がスタート

2011年 文部科学省
「URAを育成・確保する
整備事業」スタート

2013年 文部科学省
「研究大学強化事業」
スタート

キャリアパス、評価、組織設計など

主幹校 東京大学
第1回 URA シンポ

主幹校 名古屋大学
第2回 URA シンポ

第3回 URA シンポ / 第5回 RA 研究会 合同大会
(主幹校 大阪大学 & 京都大学) 2013年11月
約600人

第4回 URA シンポ / 第6回 RA 研究会 合同大会
(主幹校 北海道大学) 2014年9月
500人超

第1回 RA 協議会 年次大会
(主幹校 信州大学) 2015年9月
118機関
419人

第2回 RA 協議会 年次大会
(主幹校 福井大学) 2016年9月

事務系職員、産学連
携関係者とも連携

2009

2010

2011

2012

13

14

15

16

RA 研究会
第1回 (48人)

第2回 (66人)

第3回 (94人)

第4回 (203人)

事業採択校メン
バーを中心にネッ
トワーク組織設立
に向けた議論を開始

© Takahashi 2016

UNITT (2008年～)
大学技術移転協議会
地域・中小大学 URA 勉強会、
私学連盟、大学事務職員勉
強会等 関連の活動

URAネットワーク構築にむけた検討経緯

第1回合同大会

第2回合同大会

RA協議会
年次大会

2013年度

2014年度

2015年度以降

11月18&19日

第4回URAシンポ/第6回RA研究会合同大会

参加: 41機関
600人

19日最終セッション: ネットワーク組織設立検討開始と参加のよびかけ

URAネットワーク
設置準備委員会
3月10日発足

・2014年2月末までの賛同者のうち、「所属組織から了解の下」設立準備に参画するメンバー22機関から構成。

・2014年4月～9月(5回の全体委員会、その他WGレベルの検討を進めた)

9月17&18日

第5回URAシンポ/第7回RA研究会合同大会

参加: ○機関
一次登録400人

18日最終セッション: 協議会発足、会員加入の呼びかけ

第1回設立総会
14年3月11日

RA協議会

運営委員会

理事会的な機能

分科会1 (スキル関係) 分科会2 (情報発信関係) 分科会3 (年次大会関係)

・会員制度、年会費制度を計画
・主に組織会員による運営
・事務局担当大学

大会開催経費の考え方

2013年度

・URA整備事業費

16/09/2

2014年度

・「URA整備事業費」との連携
・「研究力強化促進事業」との連携

M.Takahashi 2016

2015年度以降

・年次大会は会員の年会費より支出
・年次大会の参加費制度、企業の賛助制度も検討

5

第1回年次大会(H27年)を例にした 企画&運営のスケジュール

例 第1回年次大会(H27年9月、信州大学)

H27年2月	組織会員予定大学へ、第1回年次大会の実行委員選出依頼、他
3月11日	第1回年次大会実行委員会の開催
3月20日	実行委員宛に、第1回年次大会のセッション希望調査
4月10日	運営委員に、第1回年次大会スポンサー企業への営業要請
6月上旬	第1回年次大会プログラムの確定、年次大会参加者やポスター等発表者の募集開始
7月下旬	第1回年次大会のポスター等発表者の決定
8月下旬	第1回年次大会予稿集Web公開
9月1~2	第1回年次大会
9月下旬	第1回年次大会の総括
10月下旬	年次大会実施要領の作成
11月12日	第2回年次大会主幹校の福井大学との引継ぎ会

年次大会実行委員会:

・実行委員長
主幹校(信州)

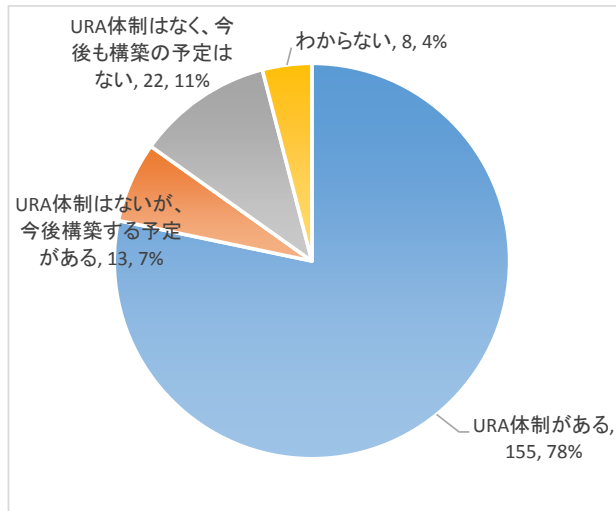
・副実行委員長
次年度主幹校(福井)

・実行委員会は、
協議会運営委員会の大学から各1名が参加。
今後は、組織外個人会員も企画・運営に携われれば良いのではないか。

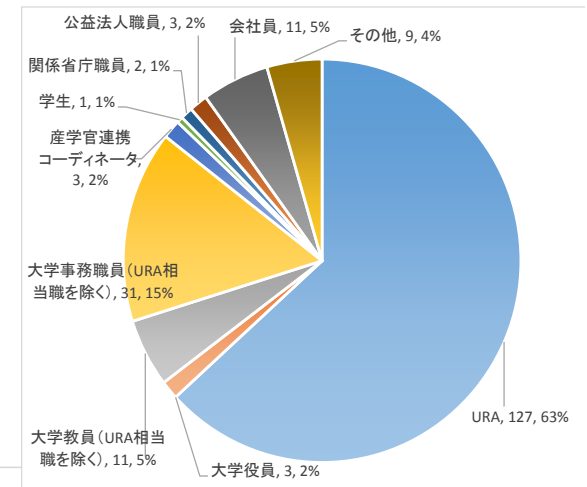
* □主幹校(ホスト)は約1年半前から準備を始めています(大会開催にあたって関係者に感謝しましょう)

第1回年次大会 事後アンケート 回答数202

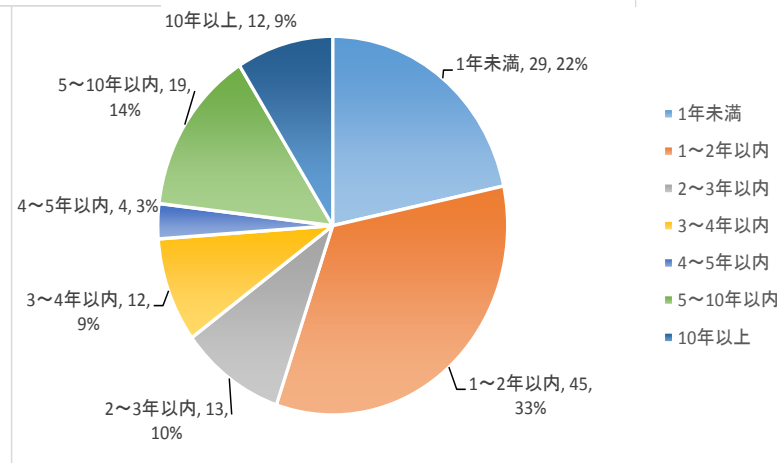
1) 参画機関のURA体制整備状況



2) 参加者の役職

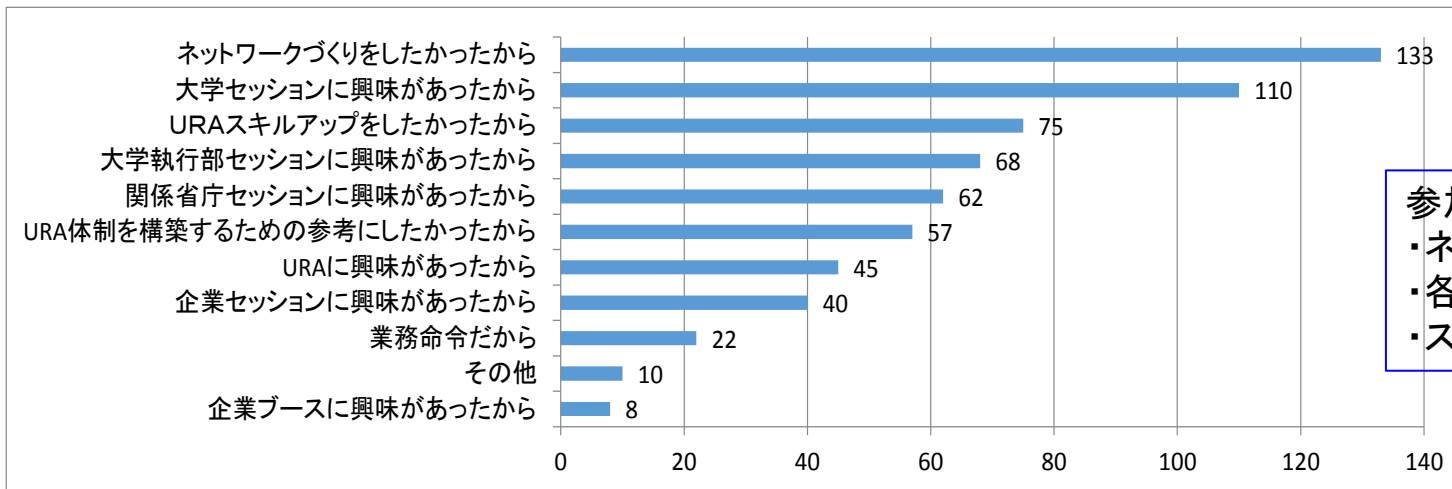


3) 役職をURAと回答した方のキャリア (類似職含む)



第1回年次大会 事後アンケート 回答数202

4) 参加動機(複数回答)

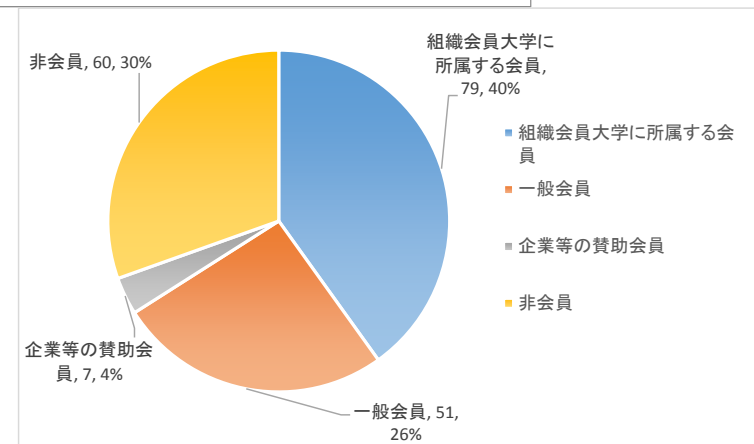


参加の3大動機は
・ネットワーキング
・各大学の活動を知る
・スキルアップ

5) 参加者の会員属性

「組織外個人会員」は、
一般会員と表記されており、
約26%。

ただしアンケート回答は
全参加者の約6割。



参加者ネットワーキングセッションの報告①

9月1日(木) 10:40～15:00

参加者:41名

Research & Administration (RA) Association 2nd Annual Meeting
参加者ネットワーキングセッション

Networking Session!

September 1-2, 2016
Rman-j 2nd Annual meeting
FUKUI

リサーチ・アドミニストレーター協議会第2回年次大会
参加者ネットワーキングセッション

9月1日(木)

10:40～15:00
会場:小会場D (研究室605)
※入退室は自由です。

[セッションテーマ]

10:40～12:10 RA協議会/年次大会への提案や意見 など
12:10～13:10 ランチタイム (フリーディスカッション)
※昼食は各自でご用意ください。
13:10～15:00 URA業務の現場の課題、悩み など

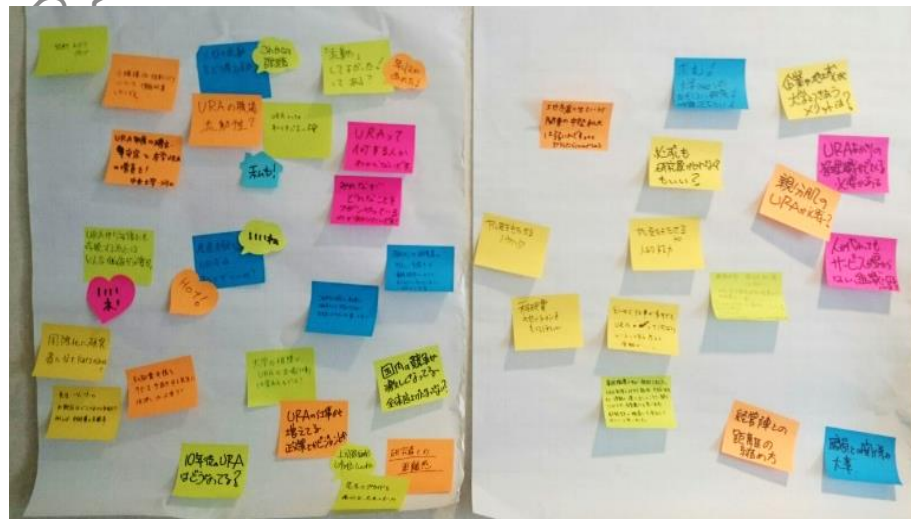
RA協議会年次大会には、全国から研究支援・産学連携業務に従事する関係者が400人近く集まります。地域や組織、役職、年齢を越えた参加者の交流の場として、「参加者ネットワーキングセッション」を実施します。

URA業務について情報交換・相談できる仲間を見つけたい人、他機関の人と話をしてみたい人、RA協議会や年次大会について提案や意見、要望がある人、RA協議会について知りたい人(入会を考えている人)、知らない人ばかりで少し心細い人、ランチの相手を見つけられなかった人など……。誰かとつながりたい人、Networkingが必要な人は、お気軽にお立ち寄りください。出入り自由ですので、好きな時間だけご参加いただけます。

初対面の参加者がスムーズに対話できるように、複数の大学・機関を渡り歩いている業界歴5年以上のセッションオーガナイザーがファシリテーターとして常駐して、皆さまのご来場をお待ちしています。

[参加者の付箋紙から]

- ・他大学のURAの活動を知りたい
- ・URAは本当に役に立っているのか?
- ・URAは5年後、10年後にも存続するためにはどんな価値が必要?
- ・科研費の手抜き申請書、やる気のない教員をどう支援するのか?
- ・分野横断的なプロジェクト企画をどうやる?



[テーマ]


- ・RA協議会/年次大会への提案や意見 など
- ・URA業務の現場の課題、悩み など

参加者の日常業務に関するものが多➡

参加者ネットワーキングセッションの報告②


[年次大会のプログラムへの提案]

- ・ 科研費に関する各大学の取組みについて（具体的な取組みとその効果について聞きたい）
- ・ 大学研究者が語るURA（URAと仕事してココがよかったなどの他機関の具体的な話を聞きたい）
- ・ 外部資金のネットワーク（研究者・URA・省庁を交えた本音トーク）
- ・ 組織を越えたURA連携
- ・ 特定テーマについてのSIGセッション（ex.生物多様性,外国人研究者対応, COI担当など）

 **本音を聞きたいという意見が多数。
ディスカッションやパネルディスカッション形式が求められている？**

[RA協議会に期待すること]

- ・ 人材の流動性、キャリアパスについての事例やモデルの提示
URAとしての将来像やキャリアパスをイメージできる事例や転職・流動をポジティブに捉えられる情報 など

 **RA制度の確立 & 安定化**

URAを生涯の仕事にしたいと思えるキャリア形成の環境整備

当面の個人会員ネットワーキングの活動方針

(主に組織外個人会員が対象だと思いますが、
組織会員機関に所属する個人会員の参加も歓迎します)

まずはネットワーキングの基盤作り →

Facebookのグループを新設
Rman-j Networking Session 2016

- 活動案
 - 1) 年次大会でSIG(Special Interest Group)セッションを企画・運営
 - 2) 年次大会のセッションテーマの提案に参加
H29年春に開催予定の年次大会実行委員会で検討されるテーマに候補を提案する
 - 3) オプショナル研修(5月@東京、9月@大会前日)、年次大会教育セッションの企画・運営に参加(スキルプログラム専門委員会に参加、具体的には等身大のURA業務の紹介、ケース事例の講師、研修運営などを想定)
- その他

出来るところからやってみましょう&来年の年次大会でも集まりましょう!
組織外個人会員 代議員
高橋真木子、林輝幸、石田貴美子